新年特集

挑戦する企業

ラベル③

土屋工業

ファンシーシールに参入
独自の製品で強み発揮

土屋工業㈱（東京都千代田区麹町、土屋俊一社長、☎03・3239・2222）は、自動車やバイクに使われるステッカー、計器に組み込まれる銘板、工業系のコーションラベルを製造するラベル印刷会社。どちらかというと無骨な印象のある同社だが、2008年に原宿の露天でロールタイプのシールを販売。09年2月、これを商品化し、ギフトショーでファンシーシールの「デコロール」として発表した。シールを巻き取ったロール型という形状や、ロールを並べた什器提案などが受け入れられ、雑貨店やファンシーショップなどから注文が殺到、約1年で430店舗に約1000台の什器を設置した。ファンシーシールは09年のリーマン・ショック以降も着実な売り上げ増を果たしてきた数少ない分野。今もその勢いは続いている。今回はデコロールのデザインや営業担当者などに話を聞き、雑貨業界で定番商品となりつつある同ブランドの今をリポートする。（中村）

「オリジナルキャラクターを売っていきたい」と力を込めるのは福田良子さん。「うちでしか出せない味のあるキャラをデザインしたい」と今井友里加さん。同社でデザインを担当している2人だ。

福田さんは以前、別の印刷会社でチラシやポスター、パッケージなどのデザインを手がけてきた。同社でファンシーシールのデザインをするようになってからは、ファンシー雑貨が以前に増して気になるようになり、今の流行にも敏感になったという。

今井さんは学生時代、建築のデザインを学んでいた。その後は「普通のOLさん」になったが、デザインの楽しさが忘れられず、同社に飛び込んだ。建築という立体物から、平面であるシールのデザインを任されれば最初は戸惑う部分もあったが、今は自分が欲しいと思う物ではなく、お客さんが欲しがってくれるシールを作るため試行錯誤の日々だ。

福田良子さん（左）と今井友里加さん

デコロールを扱う市場開発部の中村和也課長も2人と同様「もう少し、オリジナル商品を強くしたい」と言う。

ファンシーシールには漫画やアニメなどの登場人物を使ったキャラクター商品と、メーカーが独自にデザインした絵や文字を使うノンキャラクター商品がある。

中村和也課長

当初、デコロールはノンキャラ商品としてスタート。形や什器展開の面白さから人気を呼び、一気に販売数を伸ばした。ここにキャラクターの権利を持つライセンサーが目を付けないはずがない。

キャラクターの権利は基本的には、一つのキャラに一つの分野しか許可されない。シールも当然、これが適用されている。しかし、珍しい形状や特色のある素材を使っている物に関しては、この縛りから解放されるケースがある。デコロールはまさにそのケースで、多くのライセンサーやライセンスを受けたメーカーから声が掛かった。ハローキティやウンピース、ポケモン、ディズニーなど有名キャラを取り込み、さらに設置数や売り上げを伸ばした。

同商品は当初、中高生や大人の女性をターゲットにしていた。このため「ピンクやきらきらしたデザインが多かった」と福田さん。キャラクターものの展開を通じてロール式のシールは、男児向けにも比較的相性がいいことが分かった。ワンピースやポケモンのおかげか、男児が買うケースが増えたからだ。

また、購買年齢の若年化も起こり、低年齢層にもデコロールのブランドが浸透した。

そこで新たな気付きがあったのは、低年齢層でもかなり大人向けのデザインが好きだということ。今井さんも「低年齢層こそ、大人っぽい柄に憧れがある」と分析する。

オリジナルキャラ開発し飛躍へ

商品はデコロール以外にも展開し始めている。

ファンシーシールの楽しみの一つは交換。普通は剥離紙から剥がして、お互いのシール帳に貼って交換する。しかし、消費者の声として「剥がさずにとっておきたい」という要望もあった。

これに応えたのが「ぴりぴりしーる」だ。シール1枚ずつにミシン目が入れてあり、剥がさずに交換できる。

アイテムはシールだけではない。「デコえんぴつ」はグリップの端にメロンパンやドーナツなどをイメージした装飾が付いた鉛筆。「デコともDX」というキャラクターをあしらった「ボールペン」も発売した。

イベントではファミリーに大人気

シールという平面から飛び出し、店舗内で売り場の一角を立体的に構成できるアイテム群をそろえつつある。

また、デコロールを見た小売店などから、プライベートブランドでのシール製作を依頼されるケースも出てきており、すでに数社へ供給を始めた。

デコロール事業は現在、661店舗に1378台の什器を設置している。

商品リリース直後には発注が殺到しすぎて、什器が足りなかったという時期もあった。それに比べ、その伸びは落ち着いたように見える。

ロールタイプの什器はアイキャッチも抜群

同社では戦略的に単純拡大をしない方針を示している。

中村課長は「設置数は多すぎるとは思わないが、これ以上多くなれば、コモディティー化してしまう可能性が出てくる」と、店舗同士のバッティングによる安売りなどへの警戒感を示す。

では、どのように売っていくのだろうか。

それの答えは冒頭のオリジナルキャラ強化へ、デザイナーたちが見せた意欲に答えがあるようだ。

既存のキャラクターを使った商品は、デコロールというブランドの地位を向上した。一方でどこにでもあるデザインであり、デコロールでなければ楽しめないというものではない。また、キャラクターが飽きられれば次を探さなければならないという人頼みな部分もある。

オリジナルであれば、その心配はない。もちろん、「キャラクターが、多くの消費者に受け入れられれば」という条件付きだが。

取材した全員が口をそろえるのは「デコロールという商品をあらためて大事に育てていきたい」ということ。だから、余計にむやみな拡大はせず、〝オリジナル〟の制作を強化する。その上で、今までの取引先を深掘りし、新たな需要や要望の発掘を目指していくというのだ。

デコロールは現在、約500アイテム。フルアイテムをそろえれば、一つの売り場ができるほどのラインアップがある。今年はここに若いデザイナーたちが、魅力的なオリジナルキャラを投入し、今まで以上のブレークを目指す。

橋本コーポレーション

「SurePress」でシール印刷通販
新事業への適性を検討
デジタル3度目で軌道に

橋本コーポレーション㈱（東京都八王子市日吉町、橋本洋治社長、☎042・625・1158）は2011年12月から、ウェブサイト経由で受注するシール印刷通販事業「シール直送便」を運営している。印刷には現在、昨年2月に導入したエプソンのインクジェット（IJ）デジタルラベル印刷機「SurePress L-4033A」を採用。同機を用いた通販型サービスとして国内初の取り組みとなった。新事業で順調に2年目を迎えた同社にとって、デジタルラベル印刷への挑戦は「3度目の正直」。その軌跡と現状、今後の展望を取材した。（相馬）

「多様な入稿データに広く対応したい」と語る藤田室長（橋本社長）

「もうデジタルでは失敗できないと慎重になっていた。想定外の事態は今回もあったが、新ビジネスの展開と共に設備の運用を軌道に乗せられたことが何より大きい」。SurePressによるシール印刷通販についてこう語る橋本社長の顔は明るい。デジタルラベル印刷との関わりは早15年あまり。一方で工業系ラベルに続く事業を模索してきた同社の歩みが、ついに形となったためだ。

橋本社長によると、デジタル機との出会いは1996年。米国のラベルエキスポ会場で出会った電子写真方式の「クロマプレス」（アグファ発売、ザイコンによるOEM機）だった。オンデマンドへの可能性を感じ、米ガーバーの溶融型熱転写プリンタなどを導入してテストを重ねたが、当時は専用サプライ品の価格や解像度の面で実用に至らなかったという。

続いて2005年、ついに「ザイコン330」を導入した。「あこがれだった」（橋本社長）設備だが、実用化は思いのほか難航。結局5年ほどで手放すこととなった。新事業開発部門の責任者で、当時の現場にも携わった藤田大輔DLAB室長は「機械の発熱や部屋の気温・湿度、さらに剥離紙の種類によっても仕上がりが変わる。少ないロスで印刷品質を安定させる方法が確立できなかった」と明かす。

橋本社長は「今思うと、用途に適しているか十分検討しなかった面もある。1、2色をメーンに幅広い表面基材を扱う弱電向けの仕事を凸版輪転機から移行させたかったが、オフセット印刷代替の性格が強い同機は合わなかった」と振り返る。シール直送便事業を担うSurePressの導入は、「まず機械ありきではない、事業のために必要できない。そこで印刷・加工はデジタルでとなる」（橋本社長）。既存設備の代替としてデジタル機を捉えていた時期に、速度面で候補から外していたSurePressが再浮上し、導入に至ったのは「小ロット対応の通販事業向けとして見方を変えると最適だった。印刷の精度、インクの定着性、基材対応に優れていた」（同）ためだという。

現在は同機により、通販事業以外からの受注も合わせ1日10～20ジョブの印刷を行っている。ジョブ当たりの一般的な枚数は1000～5000枚。藤田室長は「前回に比べ、色出しが圧倒的に楽になり、損紙が数分の1に減った。すぐ良品が出せるため、一定額以上の注文には本機校正を無料で出すサービスも始めることができ、好評を得ている」とメリットを語る。用紙は表面基材別に9種類を使用。全て330ミリ幅で統一し、面付けの工夫でロスを低減している。

後加工では、抜きにカッティングプロッタを使用する。当初は全く刃型を使わないことも検討したが、現在は加工速度向上のため追加導入したマグネットシリンダー搭載の抜き加工機も併用。名刺サイズのラベルで1000枚を目安に使い分けている。いずれの場合も、ツヤ、マットのラミネート加工を受け付ける。

シール直送便の〝店舗〟である受注ウェブサイトには、SurePressの基材対応力を示すかのように、上質、アート、ミラーコートに加えて白PET、合成紙、和紙の材料ラインアップが並ぶ。価格表も掲示し、基本的にラベルの面積×枚数、およびラミネートの種類で決まる明快さが特徴だ。

価格公表には迷いもあったが「消費者は非情。チラシなどの印刷通販が普及し、ネット上での価格表示を当たり前と考えており、表示がなければ、その時点で発注の対象外。ラベルだけ特別とはならない」（橋本社長）と決断した。

「シール直送便」のウェブサイト

必須な設備を」という反省の上に立った選択だった。

近年、同社のメーン顧客でもある電機メーカーは海外生産へのシフトを強めている。このため同社は、工業系以外での販路拡大を計画。小ロット需要を見込んだ通販型のラベル印刷事業を検討していた。「印刷に詳しくない顧客からも受注するには、専門的で分かりづらい版代・刃型代は設定かす。

「L-4033A」での作製は順調

受注しているラベルの分野は工業系に加えトイレタリー、食品と幅広い。ジャムの使用果実ごとに異なるデザインを用意するケース、清酒用に和紙ラベルを作製するケースなど、設備の強みを生かせるものを含めて、広く全国から注文が寄せられているという。

現状で、設備と事業の課題は何か。藤田室長は「印刷では、ベタを使う場合の印刷品質を向上させたい」と語る。具体的には、シャンプーの内容表示用途で2㍉の明朝体などを抜き文字で表現する際のにじみ・つぶれや、濃色でのムラなど。サポートからは、制御ソフトのバージョンアップで改善されるとの説明を受けており、今後に期待しているという。

事業面では、フレキシブルダイを採用する場合の価格設定を見直したほか、無料試作キャンペーンと連動させた会員登録数の拡大に取り組んでいる。

ネット経由のシール・ラベル販売事業として同社は既に、駐輪ステッカーをはじめとする既製デザインの分野で10年以上の実績を持っている。同分野では、不動産管理会社などの固定客も多いが、藤田室長は「今後の伸長が見込めるのは、入稿データをラベル化するシール直送便事業の方だ」と分析。「ウェブサイトの充実、会員数増大、きめ細かな広告展開などで、さらなる認知度拡大と需要開拓を図っていきたい」と意欲をみせている。

日本フォーム印刷工業連合会
JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION
会長　櫻井　醜
〒104-0041
東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館内
TEL 03-3551-8615　FAX 03-3555-8466
URL　http://www.jfpi.or.jp/JBFA

謹賀新年
2013年1月1日

全国ネームプレート工業協同組合連合会
会長　上原　洋一
事務局　〒110-0012　東京都台東区竜泉1-28-4
TEL 03-3874-6121　FAX 03-3875-0658
URL　http://www.tnp.or.jp　E-mail:jimu@tnp.or.jp

当青年部の『今年の漢字一文字』を1月ですが決めちゃいました....
繋
色んな人・団体と『繋』な1年でありますように
東京都正札シール協同組合青年部

全日本シール印刷協賛会
会長　大内　昭彦
副会長　恩田　博
副会長　吉森　正浩
会計　高橋　範幸
会員一同

Convertech JAPAN 2013
検査に
高付加価値をプラス！
最大300m/分の
超高速全数検査を実現！
業界スタンダード
＋
『ピタッと！システム』
＋
『OCR読取り照合』
ブースNO. 東3ホール 3Q-13
シール・ラベル検査装置
お待ちしております

Convertech2013で、実機をぜひご覧ください
ベルパック製超高速横軸型および縦軸型ロールラベルチェッカーに搭載
▶シール・ラベル検査装置　ピタッと！　文字ぴたっ！
シールラベルのマスターを置くだけ！安心・簡単の刷り出し検査
▶MERCY-touch N3600A3
シンプルな操作性・高いパフォーマンス・コントローラレスを実現　ピタッと！
▶グラビア印刷検査装置Crossover
最終工程にて、全数全面検査
▶製袋枚葉検査装置　Ver.UP
不良を作らない品質管理システム
▶デジタル画像ファイリング Gallery
出展装置
TrinityWell 本体コントローラ
7月に創業40周年を迎えます
ダックエンジニアリング株式会社
http://www.dac-eng.co.jp/　E-mail:dac@dac-eng.co.jp
おかげさまで40th Anniversary
●本社・営業技術／〒601-8128　京都市南区上鳥羽大柳町１番５号　TEL(075)671-0681　FAX(075)671-5049
●大宮支店／〒330-0844　さいたま市大宮区下町2丁目16番1号 ACROSSビル１F　TEL(048)631-2551　FAX(048)631-2552

特殊欠陥回路を選択出来ます
ダックエンジニアリング（株）製 新型カメラ搭載
文字欠陥　筋状欠陥　微小欠陥　薄汚れ欠陥　色欠陥
巻き返しラベル検査機
YC511-LNTWⅢ型
ラベル移行のトラブルが少ない
パウダーブレーキ不使用
検査速度300m/分
■検査幅:300m/m
■検査速度:
(100m/分の時)0.1m/m欠点検出
(200m/分の時)0.2m/m欠点検出
(300m/分の時)0.3m/m欠点検出
DAC Trinity Well カメラ搭載型
巻き返しラベル検査機・縦軸型
YC511-LNTDⅢ型
弱テンション型
薬品・工業系の検査に対応
ラベル移行なし
糊トラブルなし
■検査幅:200m/m
■検査速度:
(60m/分の時) 0.1m/m欠点検出
(120m/分の時)0.2m/m欠点検出
(180m/分の時)0.3m/m欠点検出
省力化機械製造のエキスパート
株式会社ベルパック BELPAC
巻き取りラベル検査機／高速シートカッター／スリッター機／全自動帯掛機／自動帯掛に関する周辺の自動システム化ライン設計製作
枚葉印刷物検査機／小型グラビア輪転印刷機／自動パレタイザー／その他省力化機械設計製作
大阪市生野区巽西4丁目7番8号　〒544-0012　TEL(06)6754-7061(代)　FAX(06)6757-8738
e-mail:info@belpac.co.jp　http://www.belpac.co.jp